

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	スーパーキッズ宮ノ内南校		公表日	2024年 9月 10日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		児童福祉法の基準よりも広い面積である	自由時間バラバラに遊ぶのではなく、集団で遊べるものを勧める
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		京都府の人員配置基準より2~3名多い配置にしている	現状の人員配置を継続していく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		建築基準法と京都街づくり条例はクリアしている。トイレに手すりをつけ、バリアフリー化している	引き続き実施
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日利用者を受け入れる前に、清掃している。小学生や中学生の児童が多いので机とイスを設置した勉強部屋を用意している。	引き続き実施
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて勉強以外の時間でも、こどもたちも勉強部屋を使用できるようにしている	引き続き実施。こどもにも個別の部屋を使用できる旨を伝え、より使用しやすいような環境にする
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		毎日10分ほどのミーティングと週1回1時間会議を行い、問題点や業務改善を行っている	欠席者にも周知できるように会議録だけでなく口頭でも共有していく
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		今回が初めての自己評価のため特になし	自己評価表を参考に会議で議論し、皆様にとってより良い支援と運営を考えていく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		半年に一度、代表との面談の機会を設けている。全体でも毎日朝礼や終礼で意見を共有できる時間をつくって話し合っている	半年に一度の面談以外でも、面談を希望する場合はその都度行っている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	今までの実施はなし	必要があれば第三者評価の検討
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		外部研修や資格取得費用の半額負担を行い、支援技術や知識の資質向上を行っている	費用負担の継続 OJTの強化
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		<input type="radio"/>	反復して同じ療育を行っているため作成はしていないが支援の内容は連絡帳にて保護者に文面と写真、動画にて公表している	今後支援プログラムを書面にて作成、公表することを検討する
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		年1回の面談の実施、支援会議録の作成し個別支援計画の作成に役立っている	引き続き実施
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		放課後等デイサービス計画を更新する際にはこどもの状況や目標の到達状況、支援に関するケース会議を行っている	引き続き実施
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		利用者ひとりひとりの個別ファイルを作成し放課後等デイサービス計画を共有している。	引き続き実施
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		児童個人のファイルの作成により、状況を把握して支援を行っている	定期的にアセスメントツールを見直し、支援を継続する
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		アセスメントを踏まえながら支援内容を設定している	「地域支援・地域連携」ができていないので課題として今後支援を検討していく
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		月2回療育のプログラムやイベントの会議を行っている	プログラムがより良く準備できるように、数か月前という早い段階から全スタッフで立案を図っていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		人気イベント、療育に必要なイベント、月替わりのイベントの3つに分けて利用者統計を出して企画している	過去の申し込み希望者の集計や面談時に希望するプログラムや好きなプログラムを聞いて検討していく
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		社会性を高める目的で集団活動を多く取り入れている	利用者の状況に合わせて個別活動も組み合わせることを検討していく

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日10分ほどのミーティングを行い、当日の現場や送迎、療育、支援、書類業務の役割分担を行っている	引き続き実施	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		大きな問題については緊急で会議を行うこともある。問題点などを整理し、翌日に共有している	引き続き実施	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日ケース記録を行い、それを参考に支援の改善に役立っている	引き続き実施	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年1回の面談を行い、全利用者のモニタリングを作成、見直しを図っている	引き続き実施	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせで支援を行っているか。	○		ガイドラインに沿って支援、療育、基本活動を組み合わせで支援を行っている	引き続き実施	
関係機関や保護者との連携	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		運動療育やイベントでの参加の可否は、子どもが自己選択できるように声掛けをしている。	自己決定をする力をより育てていくために、イベントに自己決定をできるような選択肢を提示したり、そのような機会を組み込むよう	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		代表もしくは施設長クラスのスタッフが対応している	代表と主任だけでなく、どの社員でも対応できるような指導と共有を行う	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		本事業所の主治医がいるので、随時連携を取っている。子どものケースによって教育機関や他事業所との連携もとっている	引き続き必要に応じて各関係機関と連携を取りながら支援を行う	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		主に勉強などの支援は学校と連携して行うようにしている	学校の歩み寄りが少ない状況もあり、支援にバラつきがでている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて対応している	利用者の情報を聞かれた場合のみ対応している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて対応している	利用者の情報を聞かれた場合のみ対応している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて対応している	なかなか時間もとれないので電話などで対応している	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		学校などがあるので必要性はそこまで感じていない	必要があれば参加したい	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		代表もしくは施設長クラスのスタッフが参加している	会議で協議会などの情報共有と考え方などを伝える	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時と連絡帳で課題などの情報共有を行っている	具体的な改善方法などを提案できるようにする	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		個別面談で必要な方にはアドバイスさせて頂いている	もう少し気軽に面談できる機会をつくる	
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		支援内容をメインにある程度説明を行っている	利用者負担に関しては、もう少し時間を取って説明した方が分かりやすい
		37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		年に一度保護者との面談を実施し、アセスメントで保護者や利用者のニーズを聞き取り確認している。	引き続き実施。送迎時などでこまめに聞き取りを行い、子どもや家族の意向を確認する
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		放課後等デイサービス計画を保護者に確認していただいた上で、署名をいただいている	引き続き実施	
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		年に一度保護者との面談を実施。保護者からの相談があった場合、その都度面談を行ったり送迎時などで話して対応している	LINE上での相談も多いが、電話やビデオ通話なども活用しながら助言と支援を行う	
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		各家庭によって賛否が分かれることが多いので慎重に考えていきたい	参加自由のイベントなどを計画していきたい	
41		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		LINEや電話、場合によっては面談も含めて迅速に対応できるようにしている	LINEや文章などの説明が難しい場合もある	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月10日に行事予定や連絡事項などについては全員に情報を送っている	LINEでの報告がメインなので情報が見落とされている部分もある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		動画撮影など個人情報などの書類などは鍵付きロッカーで保管している	動画撮影の許可証などの希望を聞かせてもらっている
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○	今のところは対応できているが十分な体制ではない	タブレットでのやり取りなどで対応したことはあるが、他のツールも必要
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の高校や地域の方が参加できるようなイベントを計画・実施している	今後も高校の部活のコラボやダンスや体操の発表会などを行う予定
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		LINEにてマニュアルを送信し、周知を図っている	改訂などあれば随時、周知するようにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		半年に一度、3日間ほどかけて避難訓練を行う	火災、洪水、地震などケースに応じた避難を行う
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時、アセスメント時に服薬や持病・てんかん等の状況を把握している	予防接種の状況は確認できていなかったため、今後アセスメントシートを改訂し把握に努める
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーのある児童のリストを事務所に掲示し、スタッフ全員で確認している	食事やおやつを提供時には、使用する材料を保護者へ連絡、確認し連携を取りながら確認している
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、内容に沿って支援を行っている	引き続き実施
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者へはPDFファイルでマニュアルを周知している。取り組んだ際には、文面と写真にて保護者へ報告している	引き続き実施、家族へ共有していく
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		会議や日々の終礼などで共有を行い、改善策や防止策を検討している	問題がスタッフの意識なのか不注意なのかシステムなのか、設備面などが細かく伝わる
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修を職員に対して実施している	引き続き定期的に実施
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	身体拘束に該当する利用者は現在いないため記載なし	今後身体拘束の必要がなくても放課後等デイサービス計画に記載するようにする